

ダイバーシティリレーエッセイ～様々なひとの多様な視点～

ダイバーシティについて考える

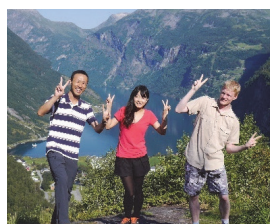
Think about "Diversity"

成田 麻未

ダイバーシティ（多様性）とは何でしょうか。一人ひとりの内面というのは、実際は多種多様です。一度も話したことがないご近所の方と話してみたら、驚きの人生経験をしていたり、とんでもない身体能力を持っていたりする可能性もあります。身近なところから無限大の「多様性」を感じることができれば大きな気づきが生まれると考え、男女共同参画委員会では「リレーエッセイ」を企画しました。日頃思っていること、悩んでいること、育児や介護、キャリア、グローバル化など、自由に想いを書いていただきたく思います。若手研究者の活躍推進に関するエピソードも Welcome です。

「ダイバーシティ」と耳にすると、女性活躍や管理職登用などがまず頭に浮かぶ方もいるかと思いますが。それらの必要性について、性別や立場など問わず、よく考え納得した上で行動に移すことが重要だと思います。私自身は、進路や仕事に関して決断する際に女性であることを意識するような場面はなく、実績もストレートに評価してもらえてきたと思っています。しかし、大きく印象に残っているのは、ノルウェー科学技術大学 (NTNU) へ留学した際のことです。受入れ先の教授は女性 (Randi Holmestad 先生) で、博士課程の女子学生も多く、技術補佐の女性はベビーカーでお子さんをおやしながら、TEM グループのランチミーティングに参加しており、活き活きと活躍するさまざまな女性と出会いました。NTNU では、女子学生や教員向けの活動に注力した結果、大きく女性比率が上昇したとのこと。今ではそういった活動は縮小しています。明らかに日本 (少なくとも私の経験した環境) とは異なる雰囲気であり、日本ではまだまだ地道な活動が必要であると実感しました。また、留学先では朝早く来て夕方 (16~17時) には帰宅するのがスタンダードであり、それでいてレベルの高い研究成果が継続的に出されていました。私は朝から晩まで実験三昧な日々も好きでしたが、長く生きていく上でワークとライフの両方を充実させる重要性を感じ、大変刺激になりました。

先に述べた「よく考え納得した上で、行動に移すこと」ですが、そこが抜けていると、どうしても表面的な議論になってしまいます。男女共同参画委員会では、今後も継続してダイバーシティについて皆様と議論する機会を設けていきますので、ぜひ積極的に参加し、職場や私生活においてその経験を活かしていただきたく思います。寄稿の立候補も大歓迎です。



写真はNTNU留学中のもの。中央が筆者、左は斎藤 健氏、右はSigurd Wenner 氏

まわるまわる、5回対称

Five-fold symmetry goes around and around

田中 宏樹

海外研究者との討議を経験し、今も私の研究姿勢に強く影響しているエピソードを紹介합니다。本誌の「私の一枚」(軽金属, 64(2014), 618) に、Al-5%Mg-0.65%Mn 合金で5回対称のTEM回折パターンを示す析出物を確認したことを報告しました。この結果をICAA3(開催地:ノルウェー科学技術大学, NTNU) で、ポスター発表することに決めました。初めての国際会議参加なので、大学での指導教官であった富井先生にお知らせしようと連絡したところ、NTNUで研究滞りされていることがわかりました。早速、富井先生に連絡すると、帰国を一週間遅くして対応するとのありがたい言葉をいただきました。発表内容が、今まで報告例のない工程での5回対称構造析出物に関してで、NTNUの先生にご意見を伺いたいと思っていました。富井先生に、「Erik Nes先生にポスターを見ていただくとありがたいのですが…」と、実現は難しいと思いつつ希望を伝えました。ICAA3発表当日、Erik Nes先生に来ていただきました！TEM解析が専門であるRagnvald Hoier先生を連れて！！(図1)

後日Hoier先生の研究室で、準結晶構造解析を実施されているS.Andersen博士も同席して発表内容を議論する機会を得ました。その結果、decagonal phase (正十角形相, D相)の可能性が高いこと、D相は正確な5回対称からずれることが多い、さらに電子線の入射方向を変えてシステムティックに回折パターンを調べるべきとのアドバイスをいただきました。Hoier先生から、この解析がどのような工業的意味をもつかとの質問に対して、具体的な回答ができませんでした。Nes先生、Hoier先生ともに、若い日本人研究者の発表内容を真摯な態度で討議いただけたことは、私の研究姿勢に強いインパクトを与えています。富井先生には大学時代、実験の難しさから逃避しようとする私に、「ヒロキ、お前は真理の探究に時間を惜しむのか?」と言われた言葉が忘れられず、疑問点を考え続ける姿勢に注意しています。上述のHoier先生の質問に対して、工業的な利用価値がないだろうかと、今も頭の片隅で5回対称パターンがぐるぐる回っています。

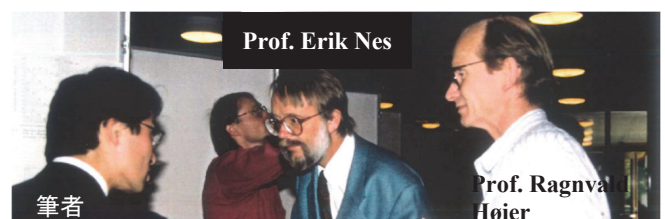


図1 ICAA3ポスター発表会場